

杖 右手で杖を持って突く身振。

使う (ハ) 金銭を使う(金銭を表わした手を前に出す) (ウ) 人を使う。人々―仕事―命令(云いつける)

使い (ハ) 「用事」と同じ手まね。(ウ) 代り―用事―行く。用事が具体的に解って居れば、例えば「買物」「相談」「物を持って」等で表わすがよい。

疲れる 左手腕の上を右手掌で叩たいてがっかりとしたように両手を下に垂れる。

使い果たす 金銭使ひ―なくする。(左手掌の上に右手掌を十字に叩たき合わせて右へさっとすり離すいわゆるすってしまふの意味)。

月 月を表わす手まねに次の(ハ)(ウ)の二様式がある。(ハ) 掌を前向け、指頭を前方にさした親指と人差指の二指を広く開いて、三日月形を描くつもりで空間に縦に弧を描いて三日

月の下部を閉じるように、二指の指頭を合わせる。(ウ) 掌を内側にして五指の指頭を左にさした右手の親指と人差指で輪をつくりそれを頬に直角にあてがい(親指の爪の背を頬につける)、そこで人差指を前に弾じくようにして輪を開らく。

(ハ) の月は「何か月」の月にも、「何月」の月にも使われる。

「四ヶ月」とするには、(ハ)の月を手まねしてから「四」を表示する。

「四月」とするには、先ず四を表示してから(ハ)の月を手まねする。

尚、この(ハ)の月は天体の月そのものを意味する。

(ウ)の月は唯に「何ヶ月」の月にのみ使う。頬に指をあてがうのは、頬肉をさしたもので、肥、肌、肘等の文字の扁を「肉月」と呼ぶことからこの月の手まねが出来たものと思

えばよい。

机 掌を下向け五指の指頭を前方にさした
両手を前でびったりと並らべ合わせてから、
左右に両手を水平に離して行き（机の天板）
次に両手を直角に（右手の掌は左側に左手
の掌の右側に向く）両手を平行に下へ降して
行く（机の両脚）

造る 左手でのみを握り、右手で槌を握り
持った姿態で（左手掌は右側にした拳、右
手掌を左側にした拳）、左手拳の上に右手拳
を打ち降し二三度叩たく。物を工作する身
振。

繕う

こわれる（やぶれる）
造る——よく——
繕う。

漬物 両手で重い石を右傍から持って来て
下へ押しつける身振（漬物の重石）——左手
掌を狙として、右手を鉤丁として物をぎさむ
真似。

都合 (イ) 「都合がよい」 「幸せ」の手ま
ねをする。(ロ) 「都合が悪い」 運——悪
い。

拙い 「下手」と同じ手まね。

鼓 左手で左肩の上に鼓を持つ姿態をし
て、右手掌で鼓を打つ真似。

綴方 作文と同じ手まね。

土 掌を内側にし五指の指頭を下にさした
両手の夫々の親指と他の四指の指頭をこすり
合わせる。手の中にある土を少し宛下へ撒き
降す身振。

恙がない (イ) 相変らず。過去——同じ——同
じ。過去を表わして即ち右手掌を右肩越しに
後方へ押しやって、その位置から、その手の
人差指と親指の指頭をつけ合やす（「同じ」
の手まね）その指の運動を繰返しながら、そ
の手を前方へ返して行く。(ロ) 「健康」（丈
夫）の手まね。